

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

2025 年 7 月 17 日(木)15:30～17:00 懇談会

1. 挨拶

— 関 雄二 (館長) —

2. ニュースリリース

●みんなくの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 山中 由里子 (議長) —

資料1

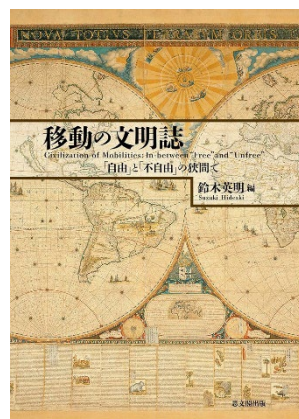
3. 最新の研究紹介

資料2

『移動の文明誌——「自由」と「不自由」の狭間で』

(鈴木英明 編／思文閣出版)

本書は、移動に焦点を当て、具体的な移動現象について、関係性を軸に多様な人文系学問から読み解き、かつ、そこにどのような自由と不自由が見えるのかについて考察した論文集です。



— 鈴木 英明 (グローバル現象研究部 准教授) —

4. デジタルブック「大学生・大学院生・大学教員のための活用ブック：みんなのディープなトリセツ」

みんなのコンテンツやその活用術を紹介し、それぞれの目的や関心に合わせて使ってもらうための「トリセツ」として作成した冊子版ブックレットを、このたびデジタルブックとしてホームページに掲載公開しました。



— 工藤 さくら (人文知コミュニケーター・特任助教) —

5. 企画展「フォルモサ∞アート——台湾の原住民藝術の現在（いま）」

資料3

オーストロネシア系先住民族の台湾原住民族は、口承や歌謡、衣服や道具の造形を通して自らの文化を伝えてきました。その営みは現在、大地と大海原の聲を聴き、森羅万象の生命を尊び、美を解放する原住民族アートとしても関心を集めています。伝統の継承を重んじながら、新たな創造の営みに取り組む芸術家たちの作品を紹介します。



(左上) イダス・ロシン
【Aotearoa II】2024 年
(右上) クルル・ルラデン
【祖靈之眼】2006 年
(下) イタン・バヴァヴァルン
【風吹動】2021 年

会 期：2025 年 9 月 18 日（木）～ 12 月 16 日（火）
会 場：本館企画展示場
観覧料：一般 780 円、大学生 340 円、高校生以下無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください
※本館展示もご覧いただけます

— 野林 厚志（グローバル現象研究部 教授） —

6. 特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」

資料4

人類史において舟やカヌーの出現とその本格的な利用は、私たちホモ・サピエンス以降だと言われています。本特別展では人類史的な視点から、本館が所蔵してきたアジアやオセアニアの海域世界における多様な舟を紹介します。

会 期：2025 年 9 月 4 日（木）～ 12 月 9 日（火）
会 場：特別展示館
観覧料：一般 1,200 円、大学生 600 円、高校生以下無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください
※本館展示もご覧いただけます



特別展関連 研究公演「マオリの伝統芸能 カパハカ」

「カパハカ」の起源は、「ハカ」(戦闘)、両端にボールがついた紐を用いて演じられていた「ポイ」、嘆きの唄「モテアテア」などにあります。植民地化される以前にあった日常的な行為が、今日見られる「カパハカ」へと進化しました。本公演では専門家による解説や参加型のパフォーマンスも用意し、オセアニアの芸能文化を体験していただきます。



ナ・ハウ・エ・ファによる
ハカの公演風景

日 時：2025 年 9 月 27 日(土)13 時 30 分～15 時 40 分 (12 時 30 分開場)

会 場：みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員 400 名)

参加費：要展示観覧券(一般 780 円、特別展をご覧になる場合は一般 1,200 円)※イベント参加費は不要

出 演：Ngā Hau E Whā (ナ・ハウ・エ・ファ)

解 説：小杉世(大阪大学 教授)、土井冬樹(天理大学 講師)、ピーター・J・マシウス(本館 名誉教授)

司 会：小野林太郎(本館 教授)

主 催：国立民族学博物館

※一般受付／8 月 25 日(月)～9 月 24 日(水)

— 小野 林太郎 (学術資源研究開発センター 教授) —

※その他の配布資料 外来研究員受入一覧(資料 5)、Study：大阪関西国際芸術祭 2025(資料 6)



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp